

## 地域の経済動向(令和5年7～9月期) 《オホーツク地域》

### 1 経済動向に係る企業等の声(7～9月期)

#### 【建設業】

- ・ 民間工事の状況が悪いため骨材の売上が減少しており、先月比で売上が1割程度落ちている。(建設業)
- ・ 重機の燃料ほか軒並みコスト増となっており、ある程度、価格転嫁しているが、コスト増分を埋められていない。  
また、公共事業を受注するためには環境基準をクリアした重機の整備が必要となるが、従来と比べ高額になっている。(建設業)

#### 【製造業】

- ・ 原材料費や燃料費の高騰を受け、徐々に価格転嫁しているものの、大手企業の価格動向に左右されるため、十分な転嫁はできていない。(食料品製造業)
- ・ 原料である道産ジャガイモが昨年不作であったため九州産を仕入れたり、鳥インフルエンザの影響で卵不足になるなど、原材料不足やコストの増加を危惧している。(食料品製造業)
- ・ 求人応募が少なく、定着率も低いため、現在はミャンマーからの技能実習生や日雇いアルバイトに頼らざるを得ない状況。(食料品製造業)
- ・ 水産加工品の販売先は海外が多く、現在は安定して輸出できているが、ALPS 処理水放出の影響を受けた中国の輸入規制が今後どう影響してくるか注視している。加工商品は影響が少ない見込みだが、貝殻付きホタテなどは在庫を抱える可能性がある。(水産加工業)
- ・ ALPS 処理水の放出で、中国の禁輸決定前に発送した加工品などが国内に返されており、倉庫の容量は余裕がない状況で、流通や包装関係の事業者にも影響が出ている。(水産加工業)
- ・ 9月からサケの水揚げが開始されるが、ホタテの取引が止まっているため、サケを仕入れる資金繰りが厳しい。(水産加工業)
- ・ 原料であるロシア産の海産物はグループ会社から調達できているが、値上がりしており、価格転嫁は少しずつ実施しているものの、高騰分を埋められる程ではない。また、コロナ5類移行で、通信販売の売上が徐々に下降している。(水産加工業)
- ・ 電気料金値上げにより年間で2～3千万円程度の光熱費増加を試算しているが、負担を減らすためソーラーパネルや蓄電池の導入を計画しているが、導入コストもかさむため、かなり厳しい状況。(水産加工業)
- ・ 従業員は地元雇用が多いが、令和5年は外国人実習生の受入のみとなり、最近5年間は地元からの応募がなく、新規採用もない状況。(水産加工業)
- ・ 若年者の採用が難しく、離職率も高いため人材確保に苦慮している。令和5年は新卒採用がゼロであり、令和3年、4年の新卒採用者は1年未満で辞めてしまった。定年退職による人員減少の埋め合わせは、中途採用のほか外国人実習生を受け入れているが、受け入れにあたり住居の確保にも苦慮している。(水産加工業)

#### 【卸売・小売業】

- ・ 新築住宅よりもリフォームや増築などがメインとなっており、資材の卸売り先が減少傾向にあるため、需要の拡大が課題となっている。(建築資材卸売業)
- ・ 国産や輸入品を問わず仕入価格が上昇傾向にあるものの、価格転嫁が充分できていないため、売上に変化はないが利益は低い水準で推移している。安定した仕入が出来ない状況も続いているので、今後の事業継続に不安。(建築材料卸売業)
- ・ ガスの原料単価は下がってきているが、運送などのコストが上がっているため、ガス料金は今後も値上がりは続くと見込まれる。また、電気料金の大幅な値上がりにより、電気からガス使用への転換が起こっており、ガス使用量増加に伴い売上也増加する見込み。(ガス小売業)
- ・ 従業員を募集しているが応募がない。高卒を新規に採用したいが、事業者間での取り合いになっている。(ガス小売業)
- ・ これまではLPガス関連の支援がなかったので、「LPガス利用者緊急支援事業」はありがたいが、一方で、作成書類の煩雑さに苦労している。特に顧客の一覧作成の作業量が膨大であり、台帳を手書きで作成している事業者は大変な状況にあると思う。(ガス小売業)

### 【運輸業】

- ・ 北見バスは、乗務員不足のため、市内線及び郊外線を対象に平日のバスを減便することを決めた。期間は当面の間としているが、通常運行に戻せる見込みはたっていない。減便割合は、1日あたりに運行する北見地域の路線全体の10%強にも上る。退職者等の補充が追いついておらず、通常運行へ戻すためには、10名程度不足している状況。（道路旅客運送業）
- ・ 北見バスを含む道東5社により乗務員採用の就職相談会を北見市内で開催したり、免許取得費の助成などを行っているが、乗務員確保に大きな効果が出ていない。（道路旅客運送業）



### 【サービス業】

- ・ コロナ禍でビジネス利用や観光旅行を控えていた反動で、コロナ禍前の2019年と比較して売上は120%と好調で、直近3ヶ月でも100%超で推移している。今後しばらくは、100%超の売上見通しを立てている。（宿泊業）
- ・ コロナ禍前と比べると宿泊と宴会利用は回復傾向にあるものの、全国旅行支援が終了してから予約は落ち込んでおり、9月まではインターハイなどの行事関係で多少予約は入っているものの、10月以降の予約は厳しい状況。（宿泊業）
- ・ 電気料金の上昇による光熱費が増加しており、節電で何とかしのいでいる。（宿泊業）
- ・ 接客から清掃などの維持管理まで全てのセクションで人材不足となっており、常に求人募集しているが応募がない。（宿泊業）

### 【関係機関・団体】

































- ・ ALPS 処理水放出の関係で、ホタテを扱う企業から風評被害による売上減少や値崩れを危惧する声が上がっている。（経済団体）
- ・ 人材不足のため、自社では困難な「機械類のメンテナンス」に関する商談需要が増加傾向。（経済団体）
- ・ 様々な業種で人手が戻らないまま各地のイベントが復活しているため、出店する店舗や準備に要する人員の確保など、行事の開催に支障が出ないかが心配である。（商工会議所）

## 2 道内金融機関から見た地域景況感(7~9月期)

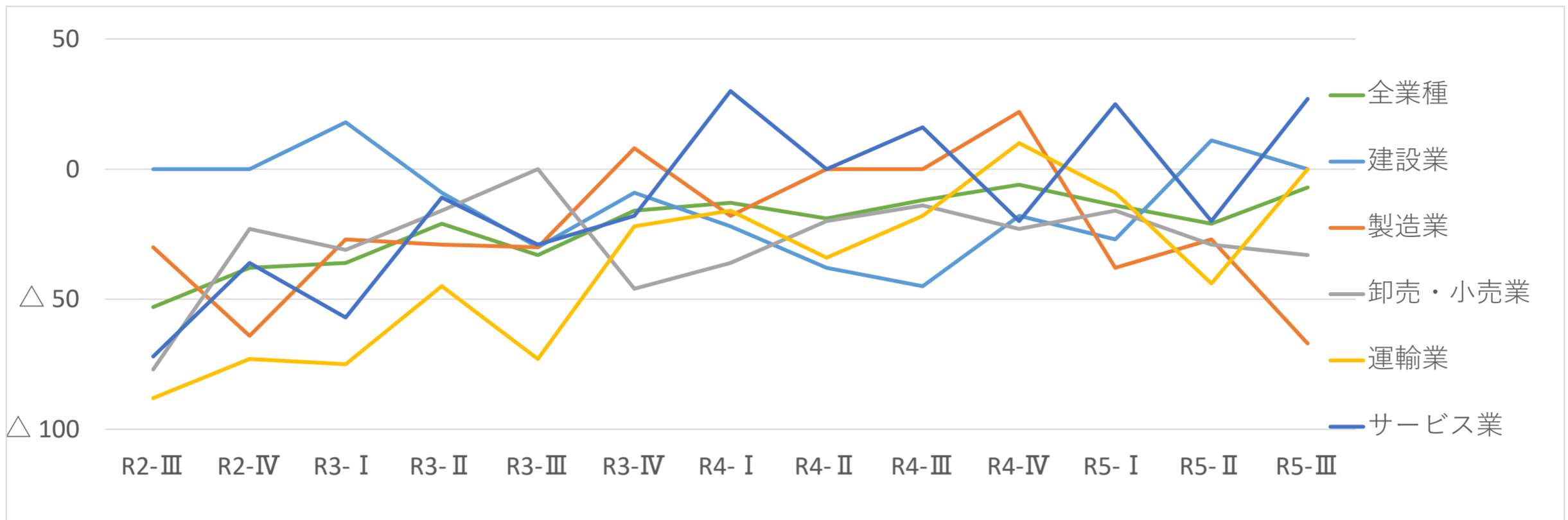
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

### 【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
網走信用金庫				当金庫業況調査において、建設業のDIがマイナスに転じたことから、生産動向は「低調」と判断している。消費動向において、卸売・小売業のDIが0であるが、サービス業のDIがマイナスに転じていることから、消費動向は「やや低調」と判断している。全業種においてDIが△7.1となり、前期の「普通」から「やや低調」と判断した。		当金庫業況調査の次期予想において、全業種のDIが△3.0でややマイナスではあるが、製造業などにおいて業況改善を予想する回答が見られるため、前期同様「変わらない」と判断した。
遠軽信用金庫				遠軽地方における景気動向調査の結果、全業種の業況DIは△8.2と前期調査(△11.8)に比べて、やや改善が図られる結果となったが、原材料価格の高騰による影響や人手不足による影響等により、続けて厳しい状況であることから、景況感は前期調査時同様の「やや低調」と判断した。 生産動向・消費動向については、全業種の売上DI及び収益DIは、前回調査と比べて大幅な変化がないことから、生産動向及び消費動向ともに、前回調査時同様の「普通」と判断した。		次期の景気見通しについては、現在の景況感に比べて、多くの業種で売上DI及び収益DIともに悪化することが予想されており「下降傾向」と判断した。
北見信用金庫 (北見地区)				当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDIは、売上高が2と12ポイントの改善、収益も△11と10ポイントの改善となっている。		今期と比較した次期の見通しでは、売上DIは3、収益DIは△12と悪化の見通しとなっている。
北見信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である水産関連について、主力のホタテ漁が最盛期を迎えたことから、生産動向は上向きであるものの、中国向けが主体となるホタテ冷凍両貝が禁輸となっており、原油価格高騰や原材料価格の上昇といった厳しい状況も続いていることから、総合的に「やや低調」と判断した。		水産関連業者の繁忙期を迎えるに当たり、地元の業況は各魚種の水揚げ量に大きく左右される中、この時期の主力である秋サケについては、昨年並みの予想であるものの、最盛期に比べ依然として低調。また、建設・土木・設備業については、最盛期となることから、総合的に「変わらない」と判断した。

	R3-IV	R4- I	R4- II	R4- III	R4-IV	R5- I	R5- II	R5- III
網走信用金庫								
遠軽信用金庫								
北見信用金庫 (北見地区)								
北見信用金庫 (紋別地区)								

### 3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I	R5-II	R5-III
全業種	△ 53	△ 38	△ 36	△ 21	△ 33	△ 16	△ 13	△ 19	△ 12	△ 6	△ 14	△ 21	△ 7
建設業	0	0	18	△ 9	△ 30	△ 9	△ 22	△ 38	△ 45	△ 18	△ 27	11	0
製造業	△ 30	△ 64	△ 27	△ 29	△ 30	8	△ 18	0	0	22	△ 38	△ 27	△ 67
卸売・小売業	△ 77	△ 23	△ 31	△ 16	0	△ 46	△ 36	△ 20	△ 14	△ 23	△ 16	△ 29	△ 33
運輸業	△ 88	△ 73	△ 75	△ 45	△ 73	△ 22	△ 16	△ 34	△ 18	10	△ 9	△ 44	0
サービス業	△ 72	△ 36	△ 57	△ 11	△ 29	△ 18	30	0	16	△ 20	25	△ 20	27

### 4 各種経済指標

